



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/zaike-j/>



- ・心身ともにたくましい生徒
- ・自ら進んで学ぶ生徒
- ・豊かな情操を培う生徒

9月に勝るもの。それは、熱い思い、強い覚悟、仲間の存在

校長 鈴木 玲

夏休みが明け、2学期がスタートして1か月。「怒涛どとうの如くごと」とは、まさにこの一月ひとつきのことを表す言葉としてぴったりです。

夏休みの最終盤、サマースクールで開催された文化祭。その翌週には在家小・柳崎小両校のサマースクールにスモールティーチャーとして参加してくれたたくさんの生徒たち。そして、その週の終わりには2学期の始業式があり、さらにその翌週には3年生の南部校長会テスト、2週間後の体育祭に向けた準備と練習も始まりました。3年生の代表生徒が素晴らしいスピーチを聞かせてくれた川口市中学校英語弁論暗唱大会。あっという間に迎えた16日(土)の体育祭。そして、体育祭の熱気をそのままに始まった新人戦。その間も「コロナは大丈夫?」「インフルエンザは?」この時期に校内で感染症が流行してしまったら準備してきたもの全てが台無しになる可能性すらあります。もちろん、行事に関わることだけではありません。日々の授業や生徒指導、気になることや対応すべきことは数多くあります。

〈怒涛どとう〉とは「荒れ狂う波のように激しく押し寄せる様子」を表す言葉です。立て続けにやってきた行事の大波、健康管理や授業、生徒指導といった常に立つ波。大小さまざまな波に飲み込まれ、もみくちゃにされ、何が起こりどこへ向かうのかすら見失いそうになる毎日。夏休みのゆるんだ生活リズムが抜けきらない体に厳しい残暑も加わり、心も頭も体も疲れ果ててしまった9月。しかし、私より遥かに大変な思いをしている生徒のみなさんは不平不満も口にせず、へこたれず、むしろ生き生きと毎日を過ごしているように見えました。

文化祭。普段なかなか活動の成果を発表する機会がない文化部や6・7組。運動部の人たちの学校総合体育大会に匹敵する程の大切な行事です。日頃の活動の成果、この日に向けて改めて準備を重ねてきた発表、ステージに立つ部員たちには緊張の中にも部活動が続けてきた誇りと輝きがありました。

体育祭。短い準備期間にもかかわらず成功させることができたのは、一人一人が自分のやれること、やるべきことに全力で取り組んだからです。全校を背中で引っ張る3年生。中堅学年として屋台骨を支える2年生。元気さでは誰にも負けない1年生。スローガンである『全員主役』そのものでした。

新人戦。各部、各選手とも最後まで全力で闘い抜きました。厳しい状況下でも県大会出場や市内での入賞を勝ち取った人たちがいます。また、目標としていた結果に達しなかった人もいるでしょう。しかし、勝った経験も負けた経験も、今後、競技を続ける上で貴重な財産になることは間違いありません。

次から次へとやってくる9月の慌あわただしさどとうを表すために〈怒涛〉という言葉を用いたことで、ある文学作品の、ある場面を思い出しました。太宰治だざいおさむの『走れメロス』です。タイムリミット、川の氾濫はんらん、山賊ぞくの襲撃しゅうげき、疲労……。たった数時間の間に、メロスには多くの困難が降りかかります。しかしメロスは決してあきらめません。中でも〈怒涛〉のもつ

「荒れ狂う波のように」という意味から濁流を泳ぎ切るメロスの姿が思い浮かびました。

— 今はメロスも覚悟した。泳ぎ切るより他にない。ああ、神々も照覧あれ！ 濁流にも負けぬ愛と誠の力を、今こそ発揮してみせる。— 怒涛の9月を乗り切ることができたのは、生徒たちの行事に対する熱い思いと強い覚悟があったからでしょう。そして何よりも、目標やゴールに向かう生徒たちの脳裏には常に「メロスにとってのセリヌンティウス」に値する**仲間の存在**があったからに違いありません。



本校の文化祭・体育祭、新人戦等、お忙しい中 会場までお越しいただき 応援してくださった保護者の皆様、誠にありがとうございました。